能登半島地震・避難所の方々の声

「腰が痛いから段ボールベッドの上に畳を敷いて使ってる」

（避難生活をされている男性）

自分は腰が痛いから床が使えないので段ボールベッドの上に畳を敷いて使ってる。家はみんな畳だから、やっぱり畳はいいよ。

この避難所は土足禁止になっていないから境界がない。自分はベッドのまわり（足元）にも畳を敷いている。こうして畳があると、自然と靴を脱ぐ。だれも畳には靴では上がらないからね。

うちの家はもうダメ。屋根がデカいから、やられた。1 週間在所にいた。余震もこわい。それからここへ来た。ここは鉄筋だから安心。去年の5月もあったし、またかーって。家を建て直したばっかり、手入れしたばっかりとか。みんな言ってる。それでももっとひどい場所あるから、そっちのみなさんが可哀そうで。最初のころはテレビ見れなかったけど、こうしてみられるようになったら、こんなことになってるんやってわかった。

【旧・土田小学校】（3 月 1 日訪問）

「子どもと一緒に寝るのに畳がとても助かった」

（避難生活をされている女性）

ここが閉まってしまうので次の避難所に畳をもっていかせてもらいます。段ボールベッドは子供と一緒に寝れないから床に寝るしかなかったので、畳がとても助かった。次もそうしようと思っています。この子のお姉ちゃん（1 年生）は 2 度と家に帰りたくないって言っていて。帰ると思い出しちゃうみたい。壁も窓もないのを見ながら、着るものも着ないででてきたからその思いと寒さでここでも余震が来るとふるえちゃって。寒いことを思い出しちゃう。お正月で子供と一緒だったからよかった。子供の安否がわからんのがいちばんつらいから。

【旧・土田小学校】（3 月 1 日訪問）

「床で寝た方が安定感があって安心できる」

（避難生活をされている男性）

パイプベッドをつかっていたけど、安定しない。落ちたこともある（笑）。こうして床で寝た方が安定感があって安心できる。高さがあったほうがいいと言われたけど、自分はここがいいと言った。何度も言われたけどね。

あとは境ができるからいい。いろんな人が高さをとりなさいって言ってきたけど、畳があるからいいやろ！っていったよ。ここはスリッパ、ここは裸足って決められるからね。

【旧・土田小学校】（3 月 1 日訪問）

「畳は自分の家みたいな日常感があった」

小原さん（七尾市職員であり、被災者として避難生活中）

畳は肌さわりもよく、まずは気持ちいい。あたたかかったし、裸足で歩けるのはいいです。自分の家みたいな日常感があった。落ち着いてきたら、車座になって話し合いとかもしていました。なんかみんな楽しそうだなって思える場所には畳があった。

次に移動する避難所はこういった環境の避難所ではないと聞いています。カーペットみたいなところ。それが理由ではないですが、私は水が出るようになったので色々考えて家にもどろうと考えています。

【田鶴浜高校】（3 月 2 日訪問）

「部屋だけだと息がつまるから畳の上で食事を」「足音が気にならないのがいい」

（避難生活をされている方々）

A さん：地震当日は戸が開かなかったから、ドアを蹴ってでてきたよ。夕方の食事の準備しようとしていたところでガス切って飛び出した。アスファルトが盛り上がるのを見たんだから。
C さん：私は８０才だけどこんなの初めて。まさかこんなことがあるなんて。
B さん：長かったから揺れている最中に出た。滋賀県の孫から「津波来てる！」って電話があったから、飛び出した。
B さん：ここの避難所では、食事も恵まれて。初日はパンを 2 人で 1 つ、2 日は朝昼なしで夜おにぎりを 2 人で 1 つ、でもそれからは皆さんにたくさん支援してもらえた。1 月 28 日までは図書室にいました。仕方がないと思いながら体育館に来たらこんな風にダンボールハウスが並んでいて。
これなら大丈夫だと思いました。たしかその日の朝から段ボールハウスの組み立てを学生たちがやってくれて、昼頃には完成していたのかもしれません。下には畳が敷いてあって、やっぱり温かいです。足腰が悪い方はベッドの方がいいかもしれませんが、こうして畳があるといいですよ。歩きやすいし、床の上は畳がいい。日本人は畳ですね。
A さん：ほかの避難所からうらやましがられています。部屋だけだと息が詰まるから、ここでお食事もさせてもらっています。昼寝もしますよ。家みたいです。このいぐさの香りがいいね。うちはみんな畳だから。
D さん：足音が気にならないのがいい。歩きやすいし温かいし最高ですよ。畳に上がって、はぁ～って安心の息をつきました。
閉鎖されて皆さんと離れるのは寂しい気もするけど、次に進めないとね。皆さんからの善意に感謝しています。寒いのに炊き出し来てくれて。これを当たり前だと思ってはいけないね。

【山王小学校】（3 月 2 日訪問）

「ごろんとなれる、これが一番」

山崎さん（避難所リーダー）

教室を避難者に利用してもらっていたが、１週間くらいしたころから体育館への移動をどうするか考えた。教室という “部屋” から体育館への移動なんて誰もしたくないはずだから、プライバシーにも配慮したものにしないといけないと考えて。段ボールハウスを自分で手配して。みんなを守らなきゃって。

畳はほんと良かったですよ。みなさん、ストレスがたまってしまう。ベッドの上だと、そのスペースでしか生活できないんです。自分のスペースだけでなく、休憩場所や食事の場所も必要ですよ。ごろんとなれる、これが一番。畳の上に段ボールハウスとベッドが最高です。

初日 650 人、体育館への移動の時点の 28 日は 120 人。それから９０人になって今は７０人。3 月 10 日に総合体育館の屋根の修復が終わると聞いているので、３月２０～２５日にはここを閉鎖する方向で考えています。家に帰れそうな人には帰ってもらって、余震が怖いなら総合体育館に来てもらおうって話しています。急に言うわけにはいかないから、今の時点で避難所を閉鎖した場合の意向調査・アンケートを実施しています。一方的に決めてしまうわけにはいかないので、こうやって今の状況を共有しながらなるべく避難者が決めていけるようにしています。

【山王小学校】（3 月 2 日訪問）

＊その後、七尾市総合体育館が集約避難所としてスタート。その準備として七尾市内のいくつかの避難所にお届けしていた畳 560 枚を総合体育館に移設。

【七尾市総合体育館】（3 月 25 日訪問）

「畳と段ボールハウス・ベッドはセットだと考えていました。だから集約避難所になる総合体育館にもなんとしてでも畳は移設したいと市に交渉しました」（山崎さん）

「いただいた 70 枚の畳は、地震当日夜の白湯、炊き立てのご飯に並ぶ、ベスト 3」

水野さん（避難所リーダー）

「伝達ひとつでもユーモアを忘れないように心がけていました」

当日の夜はとても冷え込んだことを覚えています。迫る夕暮れの中で屋内退避を優先したため、ほとんどの人が土足で武道場に駆け込んできました。仕方の無い事だったとはいえ、この先「土足厳禁」をどの段階で確立できるかを考え始めていました。さすがにこの時点で畳の事は頭になかったです。

数台の灯油ストーブに身を寄せ合う暗がりの中、何とか手に入れた 5 リットルの水道水をまずは、生後 9 カ月の赤ちゃんのミルク作りに使いたいと、みなさんに願い出ました。思えばその時から全員の中に、信頼と協力の気持ちが生まれたのだと思います。

夜明けを待ってさっそく土足禁止のお願いが出来たことで、それぞれの中で避難所をきれいに使おうという意識も広がったように感じました。これもその後の畳導入がスムーズに行われた要因の一つだと考えます。

その朝にはアルミパックのアルファ米が届きましたが、４人で１人分と必要数には全く足りませんでした。さらに他の自主避難施設からの転入も加わり、300 人近くとなったこの場所は、その半数が 75 歳以上で要介護の方も多く、命をつなぐ環境確立を急ぐとともに、県内外の有志の方々が直接持ち込まれる支援物資への対応など、緊迫した状況が続きました。

七尾市の職員も応援に来てくれましたが、被災した彼らもまた公私とも混乱の中にあり、明らかに日常の力は発揮できていないように見えました。幸い避難者の中で運営に協力してくれる方も少なくなかったので、職員と彼らの冷静さと心の余裕を失わないように、作業指示や伝達の際にはクスっと笑えるユーモアも忘れないように心がけました。

これは日ごろの会話で工夫していることなのですが、話す順番をネガティブ→ポジティブに置き換えて、次への希望につながる表現に変化させる言葉のマジックです。最初の朝食配給の時も「人数分のご用意はできませんが、磯の香のわかめご飯か優しい梅がゆのどちらかが選べます！ぜひご家族でご相談下さい！」と努めて明るい表現として、少しでも気持ちが前に向くように伝えました。

「慣れた畳の上に寝たいと希望される方がほとんど。その分、埃対策は徹底しました」

避難３日目からは発熱者の増加が心配されたため、衛生環境の見直しを行い、ほこりに混じってウィルスが広がらないように全員で掃除を始めました。この時一方的な指示ではなく何のために掃除をするのか、ウィルス除去の目的をしっかり共有できたことで、それぞれが自発的に取り組んでくれるようになりました。気が付けば誰かが必ず支援物資のウェットティッシュを使い、床に近いところやスリッパの裏までピカピカにしている状況となり、このことが畳が入ってからの自発的な掃除当番制の取組みに繋がりました。

避難所開設 15 日目の朝に搬入された待望の畳 70 枚は、個人スペースだけでなく共有スペースにも敷き詰めました。懸案の柱の凸部分には隙間を埋める素材をこちらで用意することで畳にズレを出さずに、あえて通常の日本間のようにまっすぐに並べてもらいました。縁がそろいきっちりと敷き詰められたことで、さらに綺麗に使おうとする気持ちを引き出せたのだと思います。その後に来訪された D-MAT のみなさんが、布団が畳まれ掃除が行き届いている状況を見て「ここまで綺麗な避難所は初めて見ました！」と驚かれていました。

その際ベッド導入のアドバイスも頂き、みなさんには畳の上に段ボールベットのスタイルもご提案しましたが、なぜか慣れた畳の上に直接寝たいと希望される方がほとんどでした。そのため無理強いはせずに、その分、埃対策として毎日の掃除を徹底することで対応しました。

「畳の上で大相撲中継や朝ドラを見るささやかな日常は生活を取り戻したかのような時間に」

また、思わぬ効果として用意できたテレビの大相撲中継の音声を背に、うたた寝をされる方が増えたのも微笑ましい光景でした。毎日の朝ドラを楽しみにされている方も多く、避難先とはいえ畳の上でのささやかな日常は、失った我が家での生活を取り戻したかのような時間となり、全国の職人さんの思いが縫い込められた畳は、単なる床材の域を超えて私たちの心の支えにもなりました。

思えば図らずも避難所運営に関わることとなり、様々な課題に取り組んできました。が、畳のおかげでそれまでの環境が 180 度変化したと確信します。自分の中でこの 70 枚の畳は、当日夜の白湯、炊き立てのご飯に並ぶ、ベスト３に入るものです。

い草の香りによる心のやすらぎ、畳床による不快な振動の吸収、畳表による防音効果など、避難所生活で疲れが溜まってきた矢先でしたので、これらの目に見える成果は運営側にとっても大きな喜びであったと言えます。その後の奥能登では畳の導入を見合わせた避難所があったと聞きました。様々な条件が重なってしまったのは残念ですが、試験的に休憩スペースに数枚を敷き、様子を見るのも一つの方法になったかも知れません。

これまで避難所の運営には、短い期間であってもできる限り自分の家に近い状態を作ることで心の安心につなげるように取り組んだつもりです。それが復興への一歩を踏み出す力になると思ったからです。その歩みに畳は私たちの心と体の大きな助けとなりました。日本人のＤＮＡに直接響く畳の潜在能力は、本当に素晴らしいものだと思います。みなさんのご支援に改めて感謝を申し上げます。

【田鶴浜高校】（3 月 2 日訪問）

「これからの受け入れに準備中」

（担当者の方）

今は避難者がいらっしゃいません。これから学校から移動してこられるかもしれないということで、また受け入れできるように準備しています。やっぱり畳は良いですよ。香りもいいし温かくなります。

【西湊コミセン】（3 月 2 日訪問）

「ブルーシートの上にも畳を敷きました」

（責任者の方）

本当に早い段階で畳を入れてもらえたのが良かった。段ボールベッドが来る前に入れてもらったし、土足禁止にする前に届けてもらえたのもその後の設営面でも助かりました。ブルーシートの上にも畳を敷きました。衛生面でいうと、畳を汚してしまったことがあり数枚を新しい畳と差し替えさせてもらいました。その畳は別に置いています、すみません。軽くて扱いやすく 2 階への持ち運びも容易にできました。重宝させてもらっています。

＊追加でお届けしたくらいですので多くの方が利用されていました。段ボールベッドの上で利用されています。

【矢田郷コミセン】（3 月 2 日訪問）

「高さがないとダメと言われ、畳は倉庫に」

（避難所リーダー）

人数は減って 30 人になった。仮設住宅の準備が進んだ。高さが無いとダメと言われ、段ボールベッドも早い段階で届いたので、畳は倉庫に入れています。もっと避難者が減って、もう少し段ボールベッドどうしの隙間が広がれば、畳を敷ける空間ができるかもしれない。

＊中を見せていただきましたが、通路にも敷けない状態でした。

【富来防災センター】（3 月 1 日訪問）

「段ボールベッドの上に畳を敷くと安定するとみなさんおっしゃる」

（避難所リーダー）

畳は問題なく使っている。段ボールベッドの上に敷くと安定するとみなさんおっしゃる。

畳の上に布団を敷いてつかわれている状態なので、そこを見てもらうわけにはいかない。

＊入所者以外は中には入れないため、中は見ていません。

【富来活性化センター】（3 月 1 日訪問）